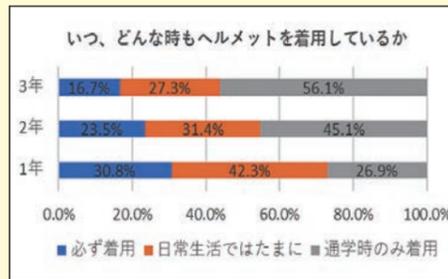


## 2. 生徒の実態

令和6年度6月、全校生徒を対象に「学校安全に関するアンケート」にて、生徒の交通安全及び災害安全に対する意識調査を行った。

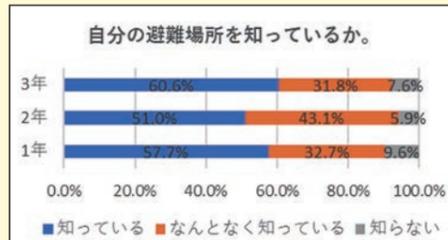
### 【交通安全への意識について】

本校ではほぼ全員が自転車通学であり、その全員がヘルメットを購入・着用している。本校の6月時点での着用状況として、日常生活でも必ず着用している生徒は3割弱であった。また、通学時のみの生徒は2.5割～5割程度いることが分かった。学年が上がるにつれて着用率が下がっていくことも読み取ることができ、交通安全への意識を高めていくことが課題の一つと考えられる。

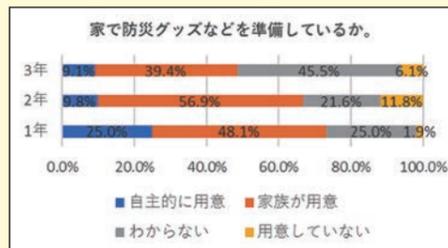


### 【災害安全への意識について】

避難場所の認知については、「知っている」と回答する生徒が5～6割いる反面、「なんとなく」や「わからない」といった不確かな回答をする生徒が3～4割いることが分かった。

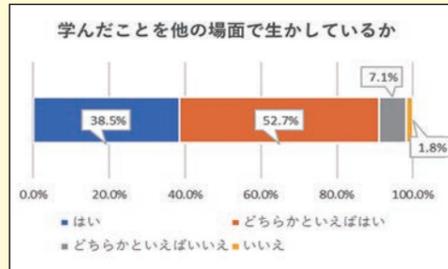


また、防災グッズの備えに関しては、どの学年でも「家族が用意している」「わからない」と答えた生徒が、全体の7～8割程度になっていることが分かる。このことから、災害安全への意識を高め、他人事ではなく、自分事として捉え、主体的に行動できるようにすることが課題だと考えられる。

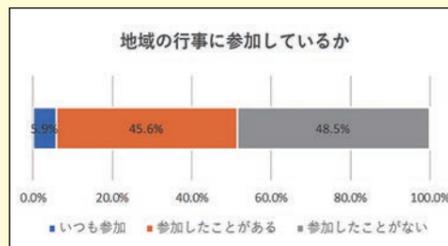
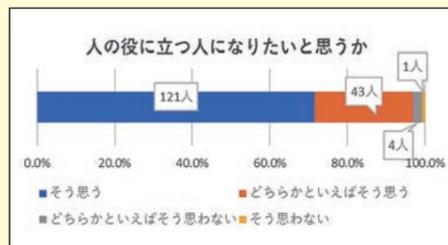


### 【「エージェンシー」に係る内容について】

「学んだことを他の場面で生かしているか」「人の役に立つ人になりたいと思うか」の質問に対して、約9割の生徒が肯定的な回答を示しており、非常に高いことが分かった。一方で、「地域の行事に参加しているか」といった、「地域とのつながり」に関する質問については、「いつも参加している」「参加したことがある」と答えた生徒が全体の5.5割程度と低いことも分かった。



「学んだことを他の場面で生かす」「人の役に立ちたい」といった資質・能力を、「学んだことを地域社会で生かす」「生活や世の中を少しでも変えよう」と考え行動する」とした「エージェンシー」として育み、地域とのつながりを深めていくことは重要な課題であると分かった。本研究を通して、生徒たちが地域の中心となって、主体的に行動できるようにしていきたい。



## 3. 研究の過程

### 令和5年度

#### －1年生－

事前学習として様々な災害について調べたり、災害時の備えについてまとめたりする活動を行った。6月終わりにはフィールドワークとして、川通中の近くにある避難所について調べたり、公民館・区役所などを訪れ、災害時の役割について調べたりしたことで、自助・共助・公助の理解が深まった。



#### －2年生－

事前学習として「耐震・制震・免震」について理解を深めたり、日本の自然災害について調べたりする活動を行った。その後、実際に厚紙で家を作る活動を通して、『災害に強い柱』について調べ、検証を行った。強い柱ができると、教科書などを積み重ねても崩れることはなく、楽しみながら理解を深めることができた。



### 令和6年度

#### 令和6年度 組織

#### 交通安全部

##### 1年生

1年生は、1学期の地域の自治会の皆様や日本交通安全教育普及協会の方々のご協力をいただきながら、「学区内の交通安全」に焦点を当て、活動した。自分たちの学区の危険な箇所をより深く理解するとともに、地域の方から実際の声も聞くことができ、毎日の自転車通学時など交通安全への意識を高めることができた。



#### 災害安全部

##### 2年生 3年生 4組 部活動

2年生は、昨年度のフィールドワークに引き続き、災害安全に焦点を当て、活動している。今年は「DIG訓練（災害図上訓練）」を実施し、自分たちが慣れ親しんだ身近な地域の安全性・危険性を理解し、発信できるように活動している。



4組（特別支援学級）は、川通中の近くで今までに起きた災害について、学校図書館を利用しながら調べ、まとめる活動をした。新しい発見もあり、災害安全への関心を高めることができた。



各部活動は、「大規模地震の避難を想定して各部活動の約束事を決めよう！」と題し、夏休みの時間を使って「顧問不在時の活動中に大規模な地震が発生したら…」と想定して、緊急時の約束事を確認することができた。それぞれの活動に合わせた課題と改善策も考え、話し合うことができた。

#### 生活安全部

##### 専門委員会

生徒会本部と5つの専門委員会では、それぞれの役割に合わせた学校安全に関する取組を生徒主体で考え、実施した。生徒たちの目線で、学校生活のあらゆる場面での安全確保について考えながら、それぞれの取組を実施できた。



#### 学校安全に関する教職員研修の実施

例年実施する傷病者発生時対応訓練や普通救命講習に加え、本年度5月に、さいたま市教育委員会健康教育課 小椋指導主事を講師としてお招きし、学校安全に関する教職員研修を実施した。「学校安全の体系」や「学校安全の三領域」等の、基本的な内容や、学校としての重要な役割などについて改めて理解し、学校安全への意識を高めることができた。



#### PTA・地域との連携

2年連続で、11月にPTA主催の「防災フェア」を実施した。地震体験車や煙体験・消火器体験の実施、消防車の展示やAED講習なども行った。生徒たちも有志で参加し、地域の方々とともに一体となって、災害安全への意識を高めることができる有意義な時間となった。

#### －3年生－

事前学習として災害対応シミュレーションゲーム「クロスロード」を実施したのち、HUG訓練を行った。HUG訓練では、近くを流れる「元荒川の氾濫」を想定して、避難所運営について検討した。災害時の正しい行動は一つとは限らないことを肌で感じたり、避難者に合わせた臨機応変な対応の重要性を学んだりすることができた。

コロナ禍を考慮した避難所対応の事例シート

No.2  
朝、登校する時に大地震が起きた。地面に伏せて揺れが収まるのを待った。見回すと、あたりの家は瓦や壁などが崩れている。家族と家が心配だ。

家に帰る？  
**Yes or No**

---

◇訓練の想定及び概要（ゲーム設定条件）

- 正午に台風が上陸！
- 夏の日曜日、学校施設の避難所
- 暴風雨が続けている。元荒川の氾濫警報あり。
- ライフライン
- 電気：停電している。ガス：遮断している。水道：断水している。電話：ときどき通じる。
- 学校の設備、備置してあるもの
- 非常用発電装置：なし トイレ：使用不可
- 備蓄食料：ある。 ※1Fは使用不可

#### －4組－

校外学習（「さいたま市防災センター」へ行く）の事前学習として、自然災害や防災について知識を深めた。当日は、様々な体験を通して、防災へのイメージをより深めることができ、日頃の防災意識へと繋がった。また、ハザードマップを初めて手にした生徒たちは、自宅や避難場所を意欲的に探していた。

